



【月刊】キリスト教書評誌

本のひろば

February 2020 **2**

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター
1957年7月17日第三種郵便物認可
2020年2月1日発行 (毎月一回発行) 第746号

● 出会い・本・人

実証的調査によって接近する「信仰の感覚」 有村浩一

● 特集「豊かな靈性に満ちた折り」に学ぶなら

この三冊！ 吉岡光人

● エッセイ

F・ハーン『新約聖書神学Ⅰ・Ⅱ』完結によせて 大貫 隆

● 本・批評と紹介

田中遵聖著 主は偕にあり 寺園喜基

上智大学キリスト教文化研究所編

ユダヤ教とキリスト教 手島佑郎

早坂文彦著

A C T によるパストラル・カウンセリング入門「理論編」 萩原 光

塩屋 弘著 ヨブ記に聞く！ 山崎 忍

關岡一成著 人になれ人、人になせ人 茂 義樹

既刊案内

書店案内

コンパクト聖書注解 コリント人への第一の手紙Ⅱ

H・W・ホーランダル 著 池永倫明 訳



文化や言語などが混ざり合った多様な人々を擁し、繁栄した都市コリント。教会内で、個々の背景や「自由」への理解の違いから生じた混乱に対し、和解と正しい信仰のためにパウロはどのように「隣人愛」を説いたのか。「キリスト者の自由」について説き明かす明瞭な注解。

● 四六判・196頁・本体2,800円

コンパクト聖書注解

コリント人への第一の手紙Ⅰ

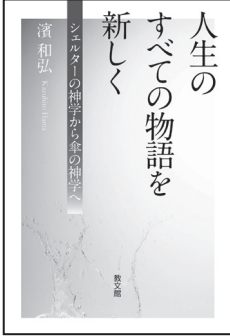
H・W・ホーランダル 著 池永倫明 訳

好評既刊

信仰生活のあり方について対立が生じたコリント教会では、「自由」に対する理解の違いから禁欲と放埒という両極端な行爲が横行した。混乱した教会が正しい軌道に戻り和解し合うために、パウロはどのように勧告したのか。最新の学問的成果を踏まえながら、手堅い翻訳と明快な解説によってその特徴を明らかにする。

● 四六判 276頁・本体3,500円

人生のすべての物語を新しく



人生のすべての物語を新しく 濱和弘 著

贖罪論に偏った救済論を再検討し、神化論としての救済論へと新たな展開を試みる。いわゆるシエルター型の囲い込みの救いから傘のように開かれた包括的な救いを伝える、教会の宣教論も提起した意欲作。

● 四六判・232頁・本体2,300円

三浦綾子 20年記念重版

神さまに用いられた人

三浦綾子 宮嶋裕子 著



幼い頃から親しんだ三浦家の人たち、「手伝ってくれる？」の一言で秘書として過ごした日々。純粋で一途な信仰に生きた作家と共に歩んで出会った、神の不思議な導きの数々。

● B6判 160頁 本体1,200円





実証的調査によって接近する「信仰の感覚」

有村浩一

解放の神学への批判の一つに、バシスタ (Basista) というものがある。現場主義過ぎて、理論化抽象化が足りない、ということか。しかし、宣教は自分が立っている現場からしか始まらないという意識の仲間も多い。

わたしにとって、足場をよく知るためには社会科学のアプローチが欠かせない。「日本は多神教の国だから」といったパラフレーズは何も意味しない。具体的調査で、現代日本人の宗教性がキリスト教背景の欧州人とどう違うかを示してほしい。事に応じて異なる聖人に願をかけるスペイン人の姿は、アニミスティックな日本人とよく似ている。

わたしが米国で神学を学んだ九〇年代、非西欧人の神学、アジア人の神学が喧伝されていた。しかし、中根千絵はすでに、インド人と日本人の自我の成り立ちは両極にあり、その中間に欧州人がいると論じていたし、ハワイ大学のタキエ・リブラは、友人と仲良くしようとするために、日本

人は己を滅し、韓国人は自己主張すると調査報告していた。「アジア人の神学」なんてひとくくりにしないでくれ、と思ったものだ。

二〇〇九年に宗教社会学者、Jerome Baggett は *Sense of the Faithful* (信仰の感覚) を著した。副題は「アメリカのカトリック信者は自分の信仰をどう生きているか」。米西海岸の、人種構成や社会階層が相当異なる六小教区を調査し、米国のカトリシズムの一端を表出させた。この「信仰の感覚」は第二バチカン公会議の鍵概念の一つ。キリスト教信仰がもつ真理の、キリスト者一人ひとりの内における現れ、とでも説明できるか。これについて、教皇庁教理省の国際神学委員会は「教会における信仰の感覚」という文書を出し、弊協議会よりいざ出版される予定である。一人ひとりにユニークに働く神の霊の力が教会を形作っていくというバシスタの理論、悪くないと思っっている。

(ありむら・こういち＝カトリック中央協議会職員)



「豊かな霊性に満ちた祈り」に学ぶなら ▼この三冊！

吉岡光人

(よしおか・みつひと…日本基督教団吉祥寺教会牧師)

プロテスタント教会の伝統の一つに「自由祈祷」があります。成文化された祈りを読むのではなく、個人の言葉による祈りです。公同礼拝において会衆が祈る場面では、成文化された祈りが多く、代表的なものは言うまでもなく「主の祈り」です。「主の祈り」は「だからこう祈りなさい」とあるように、イエスが弟子たちに教えた祈りの基本であり、また完成された祈りです。「主の祈り」はすべての教派の礼拝で欠かさず祈られます。自由祈祷を重んじている教派に

においてもそれは同様です。

一方で、プロテスタント教会では礼拝の中で自由祈祷がささげられる場面が多々あります。礼拝司式者による祈り、牧師や役員による牧会祈祷、説教者による説教後の祈り、献金感謝の祈りなどはほとんど自由祈祷でなされています。祈りを担当する人は、その場で「聖霊の導くままに祈る」こともありますし、公同礼拝にふさわしい祈りをささげるために、予め祈りを準備しておいて、それを読み上げるような形で祈る場合があるでしょう。

あります。こうした祈りの形は、祈祷書などにある成文祈祷とは違いますが、自分なりの「成文化された祈り」だと考えるでしょう。いずれの形にしても、他者が聞いている場面での自由祈祷は、祈る者にとってはしばしば心理的プレッシャーを感じます。「何をどう祈ったらいいのかわからない」、「祈りたい気持ちはあるが言葉がうまくでてこない」、「人前で話すのも恥ずかしいのに、まして人前で祈ることなどとても恥ずかしい」、「間違ったことを祈ってしまうのがこわい」等々、理由はさまざまですが、祈る前にそのようなことを心配してしまうのです。特にキリスト者になって間もない人にはこうした傾向は強いと思います。祈っている途中で止まってしまったり、逆に祈りをどう終わらせて良いのかわからなくなってしまうたり…という経験をします。わたしも青年時代、礼拝で献金当番を引き受け、献金感謝の祈

りをささげるようになったとき、初めての経験なのでとても緊張したことを覚えていています。「大丈夫、祈る言葉は聖霊が与えてくださるから、与えられた言葉をそのまま祈ればいいですよ」と励ましてくれた大人の信徒の言葉がかえってプレッシャーになり、今、思い出しても恥ずかしいくらいズタズタな祈りをしてしまった経験があります。それ以来、祈りの時はとても緊張し、言葉が口をついて出てこないこともしばしばあります。教会員でも「人前で祈るのは恥ずかしい」と思っている人は少なくないと思います。さて、こうした心理的傾向は単に「慣れていないから」とか「恥ずかしいから」というだけではないように思います。それは、「軽々しく祈ることなどできない」という真摯な思いから来る部分も少なくないと思われるのです。祈りはいつも真剣なものであり、それは自分自身の内面から出てくるものであり、他者と

共有できるものばかりではない、という思いを抱くこともあるでしょう。また、大きな喪失や悲嘆の中で「祈る言葉を失う」状態になり祈れなくなってしまうこともあるでしょう。そうしたことは決して不信仰なことではなく、むしろ祈りを真剣に考えているからだとも言えるでしょう。

教会には信仰の先達の深い祈りの言葉が残っています。それは時代や状況を超えて受け継がれることによつて、祈りの言葉を提供してくれます。優れた神学者、修道者、伝道者の祈りはもちろんのこと、無名の人の祈りからも学ぶことができます。そしてその学びは、神に対する理解を深め、同時に自己に対する洞察を深めてくれます。そして、その祈りから、自分が「今、何をどう祈ればいいのか」というヒントが与えられることも多くあります。

こうした視点から祈りに関する本を

ご紹介したいと思います。

ヴェロニカ・ズンデル編『祈りの花束』

古代から中世、そして現代までキリスト教会史に名を遺した人たちの優れた祈りと共に無名のキリスト者の祈りが収録されているオムニバスものです。またこの本は聖書の中から祈りがピックアップされているものの特徴です。旧約から詩編やダビデの祈りが選ばれ、新約からもイエスの祈り、マリアの祈り、パウロの祈りが一編ずつ引用されています。祈りの言葉が聖書のみ言葉にその基があることがよくわかります。そしてその祈りはどれも簡素で直接的なものです。編者はこう言っています。「ほかの人の祈りの言葉が私たち自身の言葉以上によく、私たちの気持ちを表すこともあるでしょう」と。またこうも言っています。「選ぶにあたって、私が一貫して求めたのは、神の前に、また人の前に、敬虔ら



『祈りの花束』

聖書から現代までのキリスト者の祈り

ヴェロニカ・ズンデル：編

中村妙子：訳

新教出版社

1987年刊

B4変型126頁

3000円（税別）



『祈れない日のために』

石井錦一：著

日本基督教団出版局

1985年刊

B6判200頁

1100円（税別）



『主日礼拝の祈り』

越川弘英・吉岡光人：監修

日本キリスト教団出版局

2017年刊

B6判136頁

1500円（税別）

しく装うことを頑としてしりぞける率直さ、正直さでした」編者がこう言っている背景には、「言葉を装って祈ろうとすることが敬虔さを表す」という誤解が教会の中に現実にあることが見えます。「だから、こう祈りなさい」と教えられたイエスの言葉に反する、くどくどとした祈り、人に聞かせようとする祈りに対する警告と、誰もが祈ることのできるような素朴で平易な祈りのお手本が収録されているのです。わたしが最初に手にした時から特に気に入っているのは「ブリュターニユの漁夫の祈り」です。「神さま、どうかわたしをお守りください。海は広く、私の舟はとても小さいのです。」

またこの本は、写真や絵画がたくさん用いられているので、絵本としての要素も強く、プレゼントに適しているのも特徴です。

また、これに類するものとして『祈

併せ持った本だと言ってよいかと思います。

内容は、教会暦を意識していて、教会暦に即した開会の祈り、罪の告白やとりなしの祈り、行事ごとの祈りなど

りのともしび——2000年の信仰者の祈りに学ぶ」（平野克己著／日本キリスト教団出版局）が2015年に出版されています。

石井錦一著『祈れない日のために』

石井錦一牧師（故人）が毎月匿名で載せていた祈りを一冊にまとめたものです。それまで自由祈祷のお手本は翻訳本が多い傾向にありましたが、これは日本の伝道者によって日本の伝道の現場から生まれた、画期的な意義深い祈りの本です。「祈れない日のために」というタイトルが示しているように、その祈りには迷い、挫折、疑い、悲しみ、怒りという、教職も信徒も誰でも抱く個人的な心情を隠さずに吐露されています。個人的な祈りの傾向がありますが、公同的な祈りのお手本にもなり得る祈り集だと言えます。

これに類する本としては『祈り——こころを高くあげよう』（渡辺正男著／

それぞれのケースに合わせた祈りが載せられています。

霊的枯渇が叫ばれています。幸い教会は古代から現代にいたるまで豊かな祈りの霊的財産を受け継いでいます。

日本キリスト教団出版局）が2015年に出版されています。

越川弘英・吉岡光人監修『主日礼拝の祈り』

私が執筆と監修に関わったので少し紹介しにくいところがありますが、主日礼拝の祈りのサンプルを示した本です。日本のプロテスタント教会では役員や長老などの信徒の中から司式者が立てられる伝統がありますが、司式者が礼拝の祈りの言葉で困難を感じたり、その日の礼拝にふさわしい祈りについて迷ったりするという声がよく聞かれます。この本はこうした声に応えるために作られました。「わたしたち」と一人称複数形で祈られているように、個人的な祈りではなく、礼拝の場でそのまま朗読されること、あるいはこれをもとに祈りの言葉をさらに加えて祈られることを想定しています。固定された成文祈祷と自由祈祷の要素を

それを宝石箱の中にしまっておくことは残念なことです。箱から取り出してそれをお手本にして新しい祈りを生み出してゆくバイタリティーが必要だと思います。

伝承史から神学史へ F・ハーン『新約聖書神学Ⅰ・Ⅱ』完結によせて

大貫 隆

(おおぬき・たかし…東京大学名誉教授、日本新約学会会長)

このほどF・ハーン『新約聖書神学Ⅰ・Ⅱ』の全訳が、ほぼ二十年の歳月をかけ、私と三人の共訳者、大友陽子、須藤伊知郎、田中健三各氏の手によって完結した。この機会に、著者の経歴と研究について改めて紹介させていただく(個人名への敬称は省略)。

著者は一九二六年にドイツのカイザースラウテルンに生まれた。一九二〇年代生まれのドイツの新約聖書学者には、同一〇年代生まれの世代と同様、第二次世界大戦への徴兵経験者が少なくない。ハーンもその一人である。一

九四四年に十八歳で軍役に服し、ドイツ敗戦後は、一九四七年まで連合国軍の監視下で捕虜生活を送った。

解放後の一九四八年から五三年まで、プロテスタント神学を学んだ。マインツ大学神学部ではE・ケーゼマン(一九〇六―一九八)から新約聖書の最初の手ほどきを受けている。その後のゲッティンゲン大学では、新約聖書のJ・エレミアス、旧約聖書のW・ツインマリー、弁証法神学のF・ゴーガルトンの薫陶を受けた。学部課程修了後の二年間、教会での牧会に従事した。

その後の一九五六年から六三年まで、ハイデルベルク大学の新約学教授G・ボルンカム(一九〇五―一九〇)の助手に採用された。その間に博士論文(一九六一)と教授資格論文(一九六三)をともに仕上げている。

この経歴からも明らかのように、ハーンは新約聖書学の学統の上では、R・ブルトマン(一八八四―一九七六)の直接の教え子ではない。しかし、ブルトマンの初期の二人の高弟E・ケーゼマンとG・ボルンカムから手ほどきを受けた者として、いわゆるブルトマン学派に直属しているわけである。ハイデルベルクでやはりG・ボルンカムから手ほどきを受けた先輩の研究者にU・ウィルケンス(現在九一歳)がおり、ブルトマンが最後に直接指導した門下生H・ケスター(一九二六―二〇一六)は、G・ボルンカムの助手職ではハーンの前任者である。

さらに特記しておきたいのは、ハーン

の助手時代が二人の日本人研究者の留学と重なっていることである。一人は熊澤義宣(一九二九―二〇〇二)、当時東京神学大学助教授)、もう一人は現在わが国の新約聖書学の最長老、佐竹明である。二人ともG・ボルンカムの下で学び、相前後して学位を取得しているから、ハーンとはまさに同期・同門の関係である。佐竹が同大学付牧師職も務めながら書いた学位論文(一九六三)はヨハネ黙示録の教会論に関するもので、その後の同氏の国際的に知られる黙示録研究の出発点となった。

教授資格取得後のハーンはキール大

学(一九六四―六八)、マインツ大学(一九六八―七六)、ミュンヘン大学(一九七六―九四)の神学部で教鞭を執った。今回の『新約聖書神学Ⅰ』の上巻の共訳者である大友陽子氏は、その内のキール大学とマインツ大学で、私はミュンヘン大学で指導を受けた。

博士論文は『キリスト論的尊称』の

表題で一九六三年に教授資格論文『新約聖書の伝道理解』(邦訳あり)と同時に関刊されているが、残念ながら日本では未だ翻訳がない。そこでは「人の子」、「主」、「キリスト」、「ダビデの子」、「神の子」の五つの尊称が、この順で取り上げられ、それぞれが初期キリスト教の中でたどった伝承史が詳細にわたって分析される。キリスト論は常に神学の主要テーマであるから、その伝承史は自ずと神学史となる。もちろん、伝承史への注目はR・ブルトマンの『共観福音書伝承史』(原著一



フェルディナント・ハーン

九二一、邦訳あり)に始まるもので、すでにそこでキリスト論的尊称にも言及がある。しかし、ブルトマンの関心はイエス伝承を文学的な様式に分けて、それぞれの伝承に伝記的信憑性がどこまであるかを吟味することにあつたので、神学史という観点は基本的には不在であつた。ハーンはブルトマンの言う伝承史を新約聖書全体の神学史へ大きく発展させながら、それをアラム語を話すパレスチナ原始教会、ギリシア語を話すヘレニズム・ユダヤ人キリスト教、ギリシア語を話すヘレニズム・異邦人キリスト教という三つの層に区分して、包括的に論述したのである。その際、「人の子」が最初に取り上げられたのには研究史上の理由がある。ブルトマンの『共観福音書伝承史』は前述の伝記的信憑性に関して是否定的な結論に達したが、それでもいくつかのイエスの言葉には、生前のイエスの「神の国」の宣教にまでさかのぼる可

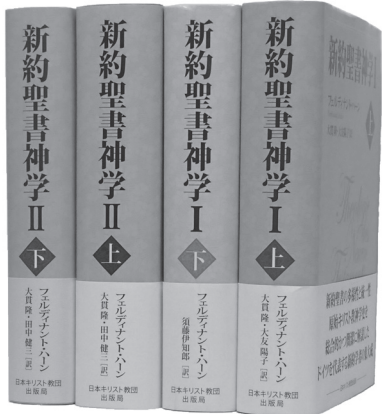
可能性があることも明らかにした。つまり、イエスの伝記は書けないまでも、その宣教に肉薄する余地が残されたのである。その代表的なケースが、間もなく「人の子」が審判者として到来することを語る言葉（マコ八38、ルカ一二8-9他）であった。果たして、生前のイエスはそのような「人の子」について語ったかどうか。もし語ったとすれば、切迫している「神の国」はその「人の子」とどう関係するのか。一九五〇年代の後半には、この問いをめぐって、ブルトマン学派の内外で実に活発な議論が闘わされることとなった（E・シュヴァイツァー、Ph・フィールハウアー、H・コンツェルマンの他、最後にR・ブルトマン自身）。こうして「人の子」は、生前のイエスの宣教と復活信仰成立後の原始キリスト教会の宣教の間の連続性あるいは不連続性を識別するための鍵概念となったわけである。正にこの時期に、G・ボ

ルンカムの指導下に二つの重要な研究が成立している。その一つがH・E・テートの『共観福音書伝承における「人の子」』（一九五九）である。そのテーゼは、事実生前のイエスは自分とは別の「人の子」の到来と審判について語ったのであり、その到来と「神の国」は実は同一の出来事だということであった。私はこれまで、精緻さと説得力の点でこれに勝る伝承史的研究に出会ったことがない。もう一つがハーンの博士論文であり、テートに遅れることわずか二年であった。公刊後わずか三年で三回版を重ね、一九九五年には改訂増補の第五版に到達している。今回のライフワーク『新約聖書神学I・II』も、若き日の博士論文の延長線上で読まれてこそ初めて十分に理解される。第I巻（邦訳I上とI下）が新約聖書の多様性についての神学史的論述となっていることは、著者による「まえがき」にも明瞭に述べられている。

。それに対して、新約聖書の統一性に焦点を当てる第II巻は主題的構成になっており、一応組織神学的と呼べる。しかし、個々の主題ごとに見れば、神学史的発展と分岐を論述しているから、ここでも神学史の視点は明瞭である。どちらの巻も史的イエスの宣教と原始教会の宣教の関係から説き起こされる点でも、博士論文の延長線上にある。注目すべきは、ドイツ語原著の第I巻（邦訳の上下合計一〇八三頁）と第II巻（同一一六頁）がほぼ同じ分量で、二〇〇二年に同時に刊行されていることである。明らかに著者は、一旦脱稿した第I巻の原稿を第II巻と整合させ、組織的に関連づけるために寝かせ続け、繰り返し第II巻からのフィードバックによって改稿したに違いないと思われる。その作業に必要とされた集中度は想像に余りある。振り返ってみれば、博士論文および教授資格論文から『新約聖書神学I・II』までの著

者には、浩瀚な著作が少なかったのも、おそらくそのためである。著者は本書に集中するために、それ以外の仕事を意識的に断念したのである。たとえば、一時はプロテスタントとカトリックの合同の注解叢書（EKK）でヨハネ福音書の注解を引き受け、すでに予備研究は始めたものの、途中で断念し、ミュンヘン大学での後任のJ・フライ（現チューリッヒ大学）に後を託している。福音書研究の方法論の上でも、ブルトマン学派の内側で伝承史的研究に接続して立ち上がってきた編集史的方法までは積極的に参照しているが、さらにそれに接続して登場した物語論的分析に本格的に関与することはなかった。それもこれも『新約聖書神学I・II』に集中するためであったに違いない。

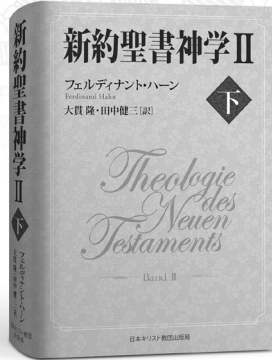
このライフワークは、初版刊行の直後に、「オイゲン・ビーザー賞」を受賞している。オイゲン・ビーザー



ン・ビーザー賞」を設けた。ハーンの著書はその第一回受賞作に選ばれたのである。事実、ハーンの活動は学術研究に限られなかった。まずカトリック教会とのエキクメニズムの対話に熱心であったことは、前述のEKK注解叢書にとどまらず、ドイツ聖書協会の共同統一訳（Einheitsübersetzung）にも積極的に関与したことに明らかである。聖書と伝統、初期カトリシズム、聖餐式、教会職制、カトリックの聖書釈義をめぐる多くの論考も著している。また、ユダヤ教との対話にも熱心で、エルサレムで行われたエキクメニカルな研究会にも繰り返し参加していた。さらに、ルーミアニアのヘルマンシユタットにあるルター派の神学研究所とも親交があり、一九九八年から二〇〇一年には同研究所で客員教授を務めている。それ以上に逸することができないのは、ドイツ東亜伝道会（略称DOA

ドイツを代表する新約学者の集大成的著作、邦訳完結!

新約聖書神学Ⅱ



フェルディナント・ハーン
大貫 隆・田中健三 [訳]

神学の諸課題について、新約聖書全体がどのように語っているのかを詳細に解説、その神学の統一性を明らかにする。「キリスト教正典としての旧約聖書」「啓示」「救済論」を扱った上巻に続き、下巻では「教会論」「終末論」を扱う。大学の教科書として書かれているため読みやすい。

A5判 上製・488頁・本体12,000円+税
ISBN978-4-8184-0879-1

『新約聖書神学』邦訳完結に寄せて

本書は神学史（第Ⅰ巻）と主題的論述（第Ⅱ巻）を組み合わせ、包括性において際立っている。読者は否応なしに、神学的な統一性に関する問いへ誘われるだろう。日本でも今後標準的な著作となっていくことは間違いない。

大貫 隆 東京大学名誉教授、日本新約学会会長



シリーズ好評発売中

新約聖書神学の全体像を、
穩健・中庸の立場から、
歴史的・神学的に捉える。



新約聖書神学Ⅰ

大貫 隆・大友陽子 [訳]
A5判 上製・550頁・本体12,000円+税
ISBN978-4-8184-0618-6

新約聖書神学Ⅰ

須藤伊知郎 [訳] **重版出来**
A5判 上製・538頁・本体12,000円+税
ISBN978-4-8184-0619-3

新約聖書神学Ⅱ

大貫 隆・田中健三 [訳]
A5判 上製・642頁・本体12,000円+税
ISBN978-4-8184-0878-4

日本キリスト教団出版局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 TEL 03-3204-0422 FAX 03-3204-0457
■ホームページ <http://bp-uccj.jp> ■Eメール elgyou@bp.uccj.or.jp

M)を介してのハーンと日本との関係である。ドイツ東亜伝道会の前身は、一八八四年にワイマールで設立された「普及福音新教伝道会」(略称AEP M)である。諸宗教についての研究と異なる宗旨の人々との対話を目的として、主として中国と日本で活動した。その後、ドイツ東亜伝道会と改称して、シュトゥットガルトとベルリンにある連合伝道会に加わりながら、独自の課題も継続している。ハーンは一九六八年から二十年余にわたって、その会長を務め、一九八八年以降は名誉会長であった。それはハーンが前述の教授資格論文の段階から海外伝道に寄せてきた関心の延長線上にある。

日本でのドイツ東亜伝道会の系譜は、明治半ばにAEP Mが活動を開始して以来続いてきたが、一九八二年に富坂キリスト教センターとして新たなスタートを切っている。その後の同センターの活動については、ご承知の方も多

いはずであるが、その発足のために主導的な役割を果たしたのが前出の佐竹明に他ならない。

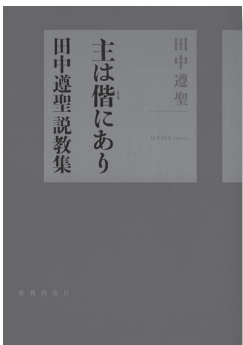
ドイツ東亜伝道会は、二〇〇六年二月末に、ハーン教授の満八十歳の誕生日を祝って、ミュンヘン郊外のベルンリートで、「古代と現代の諸宗教との関連で見るナザレのイエス」と題する記念シンポジウムを開催した。それには、日本から佐竹明、村上伸、大友陽子、寺園喜基の四氏が参加された。私自身はその時、本務校での行政責任(東大駒場の大学院地域文化専攻)と入試業務のため、止むなく欠席せざるをえなかった。その代わりに、その年の秋に刊行予定であった拙著『イエスという経験』(日本語版二〇〇三年)のドイツ語版のレジュメを送った。シンポジウムではハーン教授が自らそれを口頭で報告した上で、イエスの「神の国」のイメージ・ネットワークと「全時的今」という私の命題を積極的

に支持されたとのことである(二〇〇六年四月一二日付書簡)。

私がハーン教授に初めて会ったのは、私が最初に籍を置いたヴェルツブルク大学神学部(カトリック)のR・シュナッケンブルク教授がハーン教授と一九七五年夏学期に行った合同ゼミの席であった。その後間もなく、私はミュンヘン大学への移籍のために、妻と二人で、当時まだマインツにあったハーン教授の私宅を訪問した。その時私たちが夫婦が受けた印象では、教授は謹厳でほとんど笑わない人であった。しかし晩年、特に『新約聖書神学Ⅰ・Ⅱ』脱稿前後の教授は、初対面の時とは打って変わって、笑顔のあふれる好々爺であった。二〇一五年七月二八日、ミュンヘン郊外のホルツキルヘンで、ごく短い入院生活の後、満八九歳で最期を迎えられた。エリザベート夫人によれば、沈む夕日を眺めながらの安らかな永眠であったとのことである。

「信じ込む」ではなく「受け」

〈評者〉 寺園喜基



主は偕にあり
田中遵聖説教集
田中遵聖著

「ふつう、宗教は文化の所産だと思われる。でも、父は、宗教という言葉をつかうことはあっても人間文化の所産としての宗教のことではなかった。いや、宗教なんてことよりもアメンだった。アメン、イエス、イエスの十字架……。『宗教ではない！ 神の国だ！』というのは、

カール・バルトに強い影響をあたえたというドイツの牧師ブルームハルトの有名な言葉だが、ブルームハルト父子やバルト、うちの父などはげしいイエスのこともわかってほしい。これは作家・田中小実昌が、牧師である父・田中遵聖について記した一文（『アメン父』九頁）である。

他の一人の文章も引用させていただきたい。「田中遵聖師の『アサ会』——それは、従来の福音主義教会のきづなをさえ破って溢れ出た朝の光として、たしかに注目に値するものである。その外形の貧しさと素朴さのゆえに、ひと

自分の底で、むしろイエスが十字架につき、我が罪を受けつつ血を流していただく、ということを実感した。これは、十字架の救いを強く感じる体験であった。そして、自分はそれまで十字架の上で平然と座していたのだという自分の罪に気づかされて悔い、同時にそのような自分を担ってくださる十字架の主を「アメンと賛美する」以外になかった。これは田中には、自分の身に起こった十字架の主の救いの奇跡であった。こうして無知の大罪と決別して、自分に臨んでくださる十字架の主が「アサ」として拝されるところから、アサ会牧師としての田中の新しい出発が始まった。田中と彼に従う若い牧師たちの宣教活動はその激しさ故にバプテスト西部組合に軋轢をもたらし、これが「アサ会事件」と呼ばれた。一九三〇年代初頭のことである。

このような体験と歴史を経てなされた田中の最晩年のこの説教集は、彼の「神学」の集大成とも言える。「アメンに生きる」、「受け」、「直接する」などという独特の言い回しを通して、徹底した神の主体性が説かれる。ここでは人間の側の働きかけではなく、神の主権的働きが強調される。

びとがそれを見ずごしにすることのないように祈ってやまない。これは滝沢克己が著書『仏教とキリスト教』において書いている文章である（『滝沢克己著作集』第七巻三四八頁）。

田中小実昌や滝沢克己など少数の人々に注目された孤高の牧師、独立教会「アサ会」の田中遵聖牧師（一八八五年～一九五八年、以下は田中と記す）の説教集が写真家・神藏美子による解説とともに復刊された。田中については最近出版された伊原幹治著『田中遵聖とアサ会事件——「アサ誌」から見たバプテスト西部組合の自立と依存』（私家版、著者連絡先 kiharaga@seinan.ed.jp）に詳しい。

田中は長い間、十字架を負ってイエスに従うという救いの確信が得られず、ただ悶々として、「ドン底」の「信仰苦」にあった。しかし或るとき、十字架を負う力のない無力な

さらに、神の働きかけを人間が所有することも排除される。信仰は信じ込むことではなく、神の恵みをただ受けるのみである。この点で田中は「救いの確かさ」を求める敬虔主義とは一線を画している。彼は宗教的体験を突き抜けた所でこう語る、「内在したとか、何か入ってしまったような気持ちで、腹の中に入ったという喜んでる人がありますが、入ったとすればそれは燃えたんです。火が燃えたんです。その燃えたのは火であって神の火であって私のものが燃えたのではないんです」（八五頁）。

わたしは田中のこの説教集を読んでバルトやブルームハルト父子の信仰の基調音と呼応するものを感じた。そうだからこそ西南学院大学神学部の近藤定次や山路基などは、バプテストの中にあって、田中の教えに接してバルト神学へと向かったのだ。バルト神学や日本の教会史に関心を持つ人はもちろん、広く一般の人たちが、信仰の本質を今日においても生き生きと開示して止まない、この田中の説教に耳を傾けてもらいたいと願う。

（てらぞの・よしき＝福岡女学院院長）
（A5判・二八六頁・本体三〇〇〇円＋税・新教出版社）

ユダヤ教を知っていますか

〈評者〉 手島佑郎



ユダヤ教とキリスト教
上智大学キリスト教文化研究所編

ユダヤ教とキリスト教というテーマは主としてキリスト教世界、それも西欧のプロテスタント神学者が好んで取り上げている分野である。少なくともユダヤ教の側からこのテーマを積極的に取り上げることが滅多にない。ユダヤ人にしてみれば自分たちはモーセに導かれてエジプトを脱出して以来、神に命じられて信仰を守っているものであって、取り立ててユダヤ教が如何にあるべきかという意識はない。強いていえば、如何にしてトーラーの道を守り得るかである。その際、細かい諸注意はハラハー（行動細則）に記されているので、疑義があればハラハーを参照すればよい。ユダヤ人はモーセ五書のことを「トーラー」と呼ぶが、これを「律法」と訳すのは日本語の便法である。トーラーは、せいぜい「基本法」、または「指針」といった程度の意味である。厳格な法的規範はハラハーに規定されている。

の介助無くしては生きていけない存在である。本研究が、そうした人間愛の重要性と行動力についての再確認と自覚を讀者に促す契機になれば何よりである。

志田雅宏氏の「中世ユダヤ教世界におけるイエス」は、中世において、キリスト教徒が自分たちは、正統な聖書宗教の後継者であると主張する中で、ユダヤ教のユダヤ人などのように反応したかを、第三者の視点で観察した報告である。とりわけユダヤ教徒の間でイエスという人物像をどのように取り上げていたかを考察している点で、貴重な研究である。氏が取り上げた『トルドット・イエシュ』は平易なヘブライ語で書かれているので、ユダヤに関心がある諸賢にはぜひ一読されることをお勧めしたい。現代では、ユダヤ人でキリスト教に改修した人々が「ヒブラー・クリ

最近、米国のユダヤ教学者ダニエル・ボヤリンがユダヤ教とキリスト教に関して明快な解説をした。曰く、「ユダヤ教という概念を発明したのはキリスト教である」と。詳細は彼の著書『ユダヤ教——その近代的概念の系譜』を参照されたい。Daniel Boyarin, "Judaism: The Genealogy of a Modern Notion" (Rutgers University Press, 2018).

さて、「ユダヤ教とキリスト教」というテーマで上智大学キリスト教文化研究所主催の公開講座で三人の少壮学者が最近の研究を発表された。武井彩香氏の「ホロコースト後のユダヤ人とキリスト教徒」は、ナチスドイツのユダヤ人抹消下で、善意のキリスト教徒によって無事に助けられたユダヤ人が戦後どのような問題に直面したかを追跡している。

ユダヤ人であれ日本人であれ、本来、人は善意の第三者スチャン」と呼ばれるグループを形成している例もある。彼らはイエスをメシアであったと信じている。だが、そこにはユダヤ教のラビ学的メシア観とは異なる要素がある。高橋洋成氏の「イエス時代の言語生活」は、西暦一世紀のパレスチナ地方で使用されていた言語に着目して広範囲な角度からギリシア語、アラム語、ヘブライ語、ラテン語、アラビア語などの考察をしている。一言で申して、この研究は日本語のままにしておくのは勿体ない。ぜひ英語などに翻訳して、海外のジャーナルでも発表されるようお勧めしたい。

(てしま・ゆうろう)ギルボア研究所代表
(四六判・二〇六頁・本体二〇〇〇円＋税・リットン)

「がん哲学外来カフェ」を
始めたい教会の必読書



教会でも、がん哲学外来 カフェを始めよう

樋野興夫 編著

がんの方が対話を通して元気を回復していく「がん哲学外来カフェ」。カフェに携わる26名が、いかに教会でカフェを始め、続けてきたかを語る。 四六判・144頁・1650円

出版を記念して特別講演会・座談会を開催

がん哲学外来 第93回
お茶の水メディカル・カフェ in OCC
教会でも、カフェ！
特別講演会&座談会&がん哲学カフェ

日時 2020年2月22日(土)
午後1時~4時
会場 お茶の水クリスチャン・センター
(OCC) 8階 チャペル
東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル

参加費無料・要事前申込 (2/20締切)

【お申し込み方法】

- ①所定の申込書に記入しFAXで送信してください (03-3296-1010)。申込書は下記の出版局HPよりダウンロードできます。
- ②1月19日以降はカフェのHPから申込できます (http://ochanomizu.cc/mcafe)。
- ③1月18日までは、電子メールでも申込できます (shoseki2@bp.uccj.or.jp)。件名に「93回OCCカフェ申込」と明記し、メール本文に申込人数・全参加者氏名・代表者電話番号を記し、送信してください。

主催 / お茶の水クリスチャン・センター
共催 / 日本キリスト教団出版局

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)
http://bp-uccj.jp

「実際編」の出版をも切望!

〈評者〉 萩原 光



ACTTによるパストラル・
カウンセリング入門「理論編」
早坂文彦著

物質的には豊かでありながらも、「生きづらさ」が蔓延している日本の社会。そんな状況に対して、心療内科などの医療的支援、心理カウンセリング的なアプローチ、「癒し」をキーワードとするブログ・講座・出版物など、様々な角度からの取り組みがなされています。

そのような中、キリスト教はどのような役割を果たせるだろうか? という点について、牧師である著者は、カウンセリングとの連携という形で、長年試行錯誤を重ねてこられました。牧会学の博士号と臨床心理士の資格を併せ持つておられることから、その本気度が窺われます。

多くの対人支援技法の中から、本書では、ACTT(アクセプタンス&コミットメント・セラピー)に焦点が当てられています。ACTTは、「認知行動療法の第三の波と言われ(中略)人間の言語行動に関する最新の理論、関係フレ-

ム理論(RFT)から導き出された心理療法」と本書で紹介されています。

対人支援技法のひとつの流れは、「生きづらさの大きな原因は、人が抱えている不安・悲しみ・怒りといったネガティブな感情にある」とし、さまざまな手段を用いて、それらの感情を解消していこうという方向性をもちます。それに比してACTTでは、マインドフルネスの技法を多用することによって、ネガティブな感情との、いわば「共存」を目指すところに大きな特徴があります。さらに、ACTTのもうひとつの大きな特徴は、単なる感情への対処にとどまらず、最終的には、痛みを抱えつつも、生きるに値する人生を創造していくことが大切だとしていることです。

ストラル・カウンセリングの目的は人々が苦しみをキリストにゆだねキリストの使命を身に帯びて生きることに奉仕することでした。それは人々が自分の苦しみにとらわれず、その時々与えられる使命に気づき行動する自由を得ることを意味します。このような自由は、ACTTという心理療法の目的と重なる部分があります」と説いています。

傾聴・共感を重視するカウンセリング的なアプローチと比べ、認知行動療法は、感情の中心に深入りせず、考え方や行動のパターンを変えていくことに焦点を絞っていく面があります。それだけに、「人生の意味」に言及していくACTTの考え方は、従来の認知行動療法のイメージから考えると、意外な展開という印象を受けました。

しかし一方で、人間の生の営みが合理的に説明できるも

のだけによつては成立しないことをACTTは示唆しているものの、その向こうにあるものがアブラハム・イサク・ヤコブの神、イエス・キリストの神であるという確証はないとする著者のスタンスは、誠実な慎重さであると感じました。「キリスト教とカウンセリングとの関係をどう捉えるのか」という点に関しては、さまざま考え方があり、まだまだ議論は尽くされていないのが現状です。本書は、そこに投じられた重要な一石だと思いました。「理論編」という位置づけですので、著者の一石がより明確化していくためにも、今後、「実際編」の出版が切望されます。(はきはら・こう||子育てカウンセラー、日本基督教団勝田台教会 教会員)

(四六判・二五六頁・本体二五〇〇円+税・ヨベル)

札幌キリスト教史

宣教の共なる歩み

鈴江英一
Eiichi Suzue

人びとの思想形成と
生活に与えた
影響の大きさ

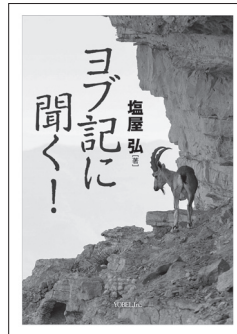
札幌における宣教の始めである1875年から戦後2004年までの〈通史〉。宣教のための必読の書。

A5判
定価【本体5,400+税】円
ISBN978-4-86325-120-5

株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

友人を執り成す者となる者となるために

〈評者〉 山崎 忍



ヨブ記に聞く!
塩屋 弘著

本書は、わたしたち人間の視点ではなく、神の視点から苦難の意味を見直させてくれる、目から鱗の良書である。ヨブ記を一章ずつ読み進め黙想できるようになっていくが、わたしは、一気に読み上げてしまった。それは、書評のためではなく、読み進めるうちに止まらなくなつたからである。

これまで私が触れたことのあるヨブ記に関する書物に、これほどワクワクしながら読んだことはなかった。本書は著者の応答の祈りを持って各章が結ばれている。それは、本書が、神の言葉を聞き、神の恵みの豊かさに応答した著者自身のデイボーションだからである。だから、わたしたちもデイボーションのように読み進めるとき、その中で主の深い御心を示し、気づきを与え、チャレンジを与えられる。分かりやすく明快であり、例話も豊かで、時には思わず微笑

中にある人と何度も対話し、共に祈ってきたが、この書物を読む中でも、自分の知らない内に因果応報的な考えに陥り、ヨブの友人のように苦難の中にある人に語りかけていた愚かな自分に気づかされたことである。

ヨブの苦悩は、彼の苦難そのものではなく、苦難から救い出されないからでもなく、「いつも一緒だった神さまが何も語ってくださらない」ということが…「苦悩」であった。そして、ヨブの苦難に新しい視点を与えたのがエリフである。彼は、三人の友人とは異なり、「ヨブにこれからの神さまの御計画へと目を開かせ」る。そして、わたしたちが苦難に遭遇するとき、「苦難の意味を問うのではなく、苦難を通して神様がなさろうとしておられる恵みの計画」へと心向けさせたのである。

笑んでしまふような信仰生活の日常も織り込まれている。

「初めから終わりまで一貫して『ヨブは正しい人』と神が認めておられるのです。…私たちは、ヨブ記を読み進めていくうちに、ヨブはわがままで、友人たちの方がよほどまともだ、と思います。けれども、するようにわたしたちがヨブの言葉を聞いているとしたら、私たちはやはり正しい人には程遠いのだということが分かります。」ヨブ記を通して、何が本当の正しさなのかを神が語っておられることをこの書物は紐解き、わたしたちに教えてくれる。それは、同時に苦難を本当の意味として知ることになる。

ヨブの友人は、ヨブを見舞いに訪れても、ヨブの苦難に向き合おうとせず、むしろヨブの態度を非難するようになる。彼らは、ヨブの苦難の原因を過去に見出そうとしたからである。わたしは、牧者として、信仰者として、苦難の

著者は、最後に、ヨブ記の結びとして、キリスト者の使命として42章8節の言葉を上げています。「わたしの僕ヨブはお前のために祈ってくれるであろう。わたしはそれを受け入れる。」ヨブの苦難は、誰のためであったのか。苦難の意味が分からず、過去から応えを引き出そうとし、ヨブを傷つけた罪深い三人の友のための執り成しである。そして、それは、わたしたち一人一人のための執り成しである。わたしたちは、この書物と共に黙想するとき、知っていたつもりの主の十字架の苦難をより一層深く教えられ、経験し、自分の十字架を負う者に変えられることになるであろう。

(やまざき・しのぶウエスレアン・ホーリネス教団浅草橋教会牧師)
(四六判・一六八頁・本体二三〇〇円＋税・ヨベル)

ヨベルの新刊案内

ジュセツペ三木一 A5判・二五〇〇円
アベルのところで命を祝う
 創世記を味わう第4章「人類最初の、しかも兄弟間での殺人事件が如何に起こったのか。正教会著者による丹念にたどり直した意欲作。」津久井やまゆり園事件」をも併せて読み解くシリーズ第二弾！既刊書在庫僅少

松島雄一 ハリストス大 版教会司祭
神の狂おしいほどの愛
 *メッセージ集 正教会一年間の教会言葉に沿って語られる人々の真の霊性(いきかた)へと開花させる。47の説教&論考。ヨベル新書054 新書刊・256頁・1200円

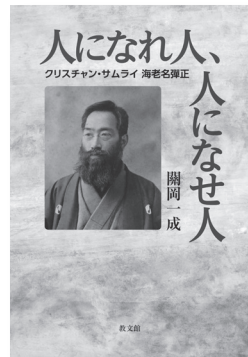
塩屋 弘 ウェスレアン・ホーリネス教団戸畑高峰教会牧師
ヨブ記に聞く!
 正しい人がゆえなき苦しみには何故かやた一人々を惹きつけてやまないヨブ記を、あたかも物語の輪の中を巡り直す。四六判・168頁・1,300円

鎌野善三 日本イエス・キリスト教団西舞鶴教会牧師
3分間の「律法」
 (聖書通読のためのやさしい手引き書)
 聖書全巻の一章ごとの要諦を3分間で読める平易なメッセージにまとめて、「聖書新改訂2017」に準拠した改訂第4弾! [全5冊] [律法] [歴史] [詩歌] [預言] [福音]。各1,600円 次回「預言」にて完結。好評発売中! A5判・208頁・1,600円

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.co.jp
 〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F
 TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
 出版の手引き / 呈 (税別)

リベラル神学の体現者・海老名はいかに生きたか？

〔評者〕 茂 義樹



人になれ人、人になせ人

クリスチャン・サムライ 海老名弾正
關岡一成著

關岡一成氏は、海老名弾正の生涯と思想を詳説した『海老名弾正——その生涯と思想』（教文館）を二〇一五年に出版したが、今回海老名の思想を簡素に紹介した『人になれ人、人になせ人』を刊行された。

海老名は熊本洋学校でL・L・ジェーンズに出会いキリスト者になり、開校直後の同志社英学校に学び、牧師として活躍した。彼は日本組合教会系の機関誌『基督教新聞』『基督教世界』や自ら主宰した雑誌『新人』等を通して論文を多数発表し、リベラルなキリスト教信仰を主張した。

第一章「忠考の倫理」で海老名は福岡県柳川の武士の家に生まれ、国を愛し、君主に仕える為の武士の道を歩むべきことを、特に母親から教えられた。

第二章「キリスト教受容」で彼は熊本洋学校に入学し、ジェーンズのバイブルクラスで、キリスト教に触れる。ジェー

ンズが祈禱は神に対する「職分」であると説いたので、海老名は神との関係を君臣、主僕の関係と捉え、キリスト教に入信し、進路も政治家、官吏から牧師へと変える。

第三章「宣教師に神学を学ぶ」では同志社英学校に入学し新島襄、デイヴィスから学んだが、それらは海老名に満足を与えなかった。眼病にかかり、読書不能となる。知識欲を封じられ、煩悶したとき、京都御所の木の下で、神を愛するとか、日本伝道という目標は、自分の名誉欲であり、自分は自己中心の罪人であるとの罪悪感に責められた。しかし同時に自分の中に一片の善意として、神の聖旨に沿おうとする意思があり、自らを神の赤子とする信念と出会う。神は自分に無能、無力、無知の赤子であることを求められた。この神の赤子体験が海老名の第二の回心だった。

同志社卒業直後安中教会牧師に就任し、横井美屋と結婚、

眼病の海老名は妻に聖書を読んでもらい、説教した。

第四章「オーソドックスとリベラルの間」で海老名は日本組合基督教会の前身である「日本基督教伝道会社」社長に就任し、宣教師からの独立と教会の自給に力を入れる。

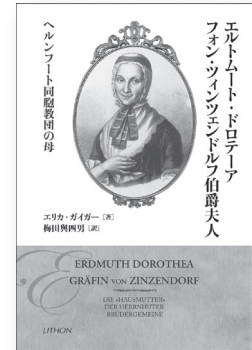
第五章「神学の確立」では海老名が宮川経輝と共に起草した「奈良宣言」が日本組合基督教会で一八九五年採択される。それは「罪悪を悔悛し基督によりて天父に帰順すべき事」、「人は皆神の子なれば互いに愛隣の大義を全うすべき事」を信仰の中心とした。ここでは三位一体の神、十字架の贖罪、肉体の復活についての言及はなかった。こうした自由主義神学は曖昧であるという批判に対して、著者は海老名が神を父とし、人間を神の子とする明確なキリスト教信仰の持ち主として評価する。

一八九七年海老名は上京し、賛同者による本郷教会を起こし、直ちに大教会に成長させ、雑誌『新人』も刊行した。そこで植村正久との間で神学論争が起こる。著者は論争の中心は「イエスは神か人か」であったとし、海老名はイエスを人として、十字架の贖罪説をとらなかつたとする。

第六章「海老名のキリスト教受容の特色」では彼がヘレニズム・キリスト教の流れの中で、イエスが神を父として信じた故に、イエスは神ではなく人であるとし、イエスの十字架の贖罪を救いの究極におかなかつた、とする。

把握しにくいリベラル神学を、海老名を通して解明し、信仰の多様性を理解する絶好の著作と言えよう。

エルトムート・ドロテア フォンツインツェンドルフ伯爵夫人 エリカガイガー 著



本書はモラヴィア人信仰難民たちとの関わりにより敬虔主義の指導者となったツインツェンドルフ伯爵の妻となり、彼女なくしてヘルンフト同胞教団は存続しなかつたといわしめた伯爵夫人エルトムート・ドロテアの伝記である。一八世紀前半における同時代の女性指導者についてのこの種の伝記は類書が極めて少ない。

ISBN978-4-86376-077-6

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区神田三崎町2-9-5-402
☎ 03-3238-7678 FAX 03-3238-7638

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zeninkan_syoten_0530@afso.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1771F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区銀座4-5-1	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taisindo-books.jimbo.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biglobe.jp/~yohatara.cds/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://nagoya-seibunshala.coccan.jp/	nagoya-seibunshara@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東1ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0013	大阪市北区茶屋町2-30	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびぶるすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用		kobe-kirisyo@mse.biglobe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/masujama_1007/index.htm	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖繩キリスト教書店	903-0207	中瀬町字砂原777 沖繩キリスト教館内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

既刊案内 (2019年10月～2019年11月)(定価はすべて本体価格+税)

編・著・訳者	書名	判型	頁	本体価格	版元	発行日
G.クラーク著 松崎一平他訳	アウグスティヌスの母 モニカ ー平凡に生きた聖人	A 5	314	3,400	教文館	10/30
岡部一興	長谷川誠三 ー津軽の先駆者 の信仰と事績	A 5	324	3,800	〃	10/30
金斗鉦/具本曙作	マンガ絵本 聖書ものがたり クリスマス	A 4	26	1,200	日本キリスト 教団出版局	10/7
小泉健	主イエスは近い ークリスマスを迎 える黙想と祈り	四六	120	1,200	〃	10/15
関野和寛	神の祝福をあなたに。 ー歌舞伎町の裏 からゴッドブレス!	四六	88	1,000	〃	10/18
田中遵聖著 神藏美子解説	主は偕にあり ー田中遵聖説教集	A 5	286	3,000	新教出版社	10/31
上智大学キリスト 教文化研究所編	ユダヤ教とキリスト教	四六	206	2,000	リトン	10/15
エリカ・ガイガー著 梅田興四男訳	エルムート・ドロテーア フォン・ツインツェ ンドルフ伯爵夫人 ーヘルンフート 同胞教団の母	四六	230	2,000	〃	10/30
ルター研究所編	ルター研究第16巻	A 5	318	3,000	〃	10/31
平河内健治	聖と俗のはざま ー欲たがりすつ と、斗掻ぎされる	A 5	252	1,800	キリスト新聞社	10/25
松島雄一	神の狂おしいほどの愛	新書	256	1,200	ヨベル	10/20
大嶋重徳	クリスマスの約束 ールカ福音書に よる37の黙想	四六 変	128	1,000	教文館	11/10
フェルディナ ント・ハーン著 大貫隆/田中健三訳	新約聖書神学Ⅱ 下	A 5	488	12,000	日本キリスト 教団出版局	11/22
ヘンリ・ナウエン著 嶋本操監修/河田正 雄訳/酒井陽介解説	今日のパン、明日の糧 ー暮らしにいのちを 吹きこむ366のことば	四六	424	2,400	〃	11/25
塩屋弘	ヨブ記に聞く!	四六	168	1,300	ヨベル	11/24
鎌野善三	3分間のグッドニュース 「律法」ー聖書通読のため のやさしい手引き書	A 5	208	1,600	〃	11/25

福音と世界

2020年2月号

特集 障害に根ざす

寄稿者＝岡部耕典、三井さよ、美馬達哉

市野川容孝、猪瀬浩平

報告 アジア・エキユメニカル女性総会(藤原

佐和子)／好評連載 くまさんのシネマめぐり

(好井裕明)、パビロンの路上で Conjectures of a

Son of a Preacher Man (マニエル・ヤン)、神の

酒(石井光太) 教父学入門(土井健司)、福音

書記者たちの饗宴(松本あずさ)ほか

A5判・本体 588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyopb.com

編集室から

るのだろうか、スマホの画面は緊急時に懐中電灯の代用と
なるくらい明るい。館内に何か所もの光る空間ができるそ
うだ。

なぜ上映中にスマホを見るのかという第一の理由は、「LINE
が来たら、すぐ返さなければならぬ」というもの
であった。即時に返信しないと仲間から省かれてしまう。
映画は二時間もあるので、その間、不安で仕方がないとい

新聞を読んでいたら、「映画館
でスマホを見る人」問題が取り上
げられていた。上映中にもかかわ
らず、スマホを数分から数十分に
わたって見続ける人が多いという。
音を出さなければよいと思ってい

予告

本のひろば

2020年3月号

本・批評と紹介

グレゴリー・ジョーンズ／セレストイン・ムセク
ラ著『赦された者として赦す』、鎌野善三著『3
分間のグッドニュース「律法」、エリカ・ガイ
ガー著『エルムート・ドロテアフォン・ツイ
ンツェンドルフ伯爵夫人』他

う。見終わってから「映画見てた」と返せばよいと思うの
だが、SNSによるツナガりは、そうはいかないのだろ
う。また別の意見も面白かった。「スマホを見て何が問題
なの?」。これには魂消てしまった。神経質すぎる!と
感覚論で反論されれば、数値基準があるわけではないので
答えに窮する。せいぜい「興業主である映画館からマナー
違反としてやめるよう事前アナウンスがあったから」と言
うほかない。

二時間の映画が我慢できない時代となった。礼拝中にス
マホを見るような人を見たことはないが、そのうち遭遇す
るかもしれない。越川弘英編著『礼拝改革試論』、キリス
ト新聞社、二〇一九、を読みながら、そのようなことを考
えた。(寺田)

政治神学の想像力

政治的実践としての
典礼のために

ウイリアム・キヤヴァノー「編」／東方敬信、田上雅徳「訳」

1月24日

国家・市民社会・グローバル化を支配する「規律化された想像力」を別括し、「もう一つの想像力」をキリスト教のストーリーから回復しようとする試み。著者はネオ・オルソドキシシーの立場から最も注目されるカトリックの神学者。 ◆四六判・本体2500円

未完の独立宣言

2・8朝鮮独立宣言
から100年

12月23日

在日本韓国YMCA「編」

「2・8独立宣言」が東京から発せられ3・1独立運動の端緒となつて100年。その歴史の意義やキリスト教との関係、また現代に提起する課題を考究する。寄稿者||小野容照、尹慶老、波多野節子、宋連玉、裴始美、太田哲男、松田利彦、徐正敏、金興洙、李省展、マイケル・シヤピロ、金性済、佐藤飛文、佐藤信行、田附和久 ◆四六判・本体2500円

主は偕ともにあり

田中遵聖じゆんせい説教集

大反響!



田中遵聖「著」／写真家 神藏美子「解説」

直木賞作家田中小実昌の父にして独立教会「アサ会」の牧師だった田中遵聖（二八八五―一九五八）。その自由で無類な福音観を余す所なく示す説教集。長らく入手困難だった貴重な書を復刊。 ◆A5判・本体3000円

組織神学 第一巻

待望の邦訳ついに刊行開始

ヴォルフハルト・パネンベルク「著」／佐々木勝彦訳「訳」

反響!

キリスト教の真理要求をあくまで保持しつつ、歴史の省察と体系的省察とを絶えず結合し貫徹しようとする批判的・方法的意識に貫かれた精密な叙述。 ◆A5判・本体9000円

第二コリント書 10-13章

11月22日

佐竹 明 (広島大学・フェリス学院大学名誉教授)

【現代新約注解全書】

世界最高水準の注解。パウロを中傷する論敵との対応、そこから浮かび上がるパウロ神学における「弱さ」「愚かさ」の意味とは。今回は1-7章。 ◆A5判・本体9700円

既刊 第二コリント書 8-9章

◆A5判・本体7000円

パウロによる献金問題への訴えなど重要な個所を扱う。

信州に祈りの共同体「高森草庵」を創った押田神父の著作選集、刊行開始!

押田成人著作選集 ① 深みとのめぐりあい 高森草庵の誕生

宮本久雄 / 石井智恵美 編

2020年
1月24日
刊行予定

押田^{しげと}成人神父が九死に一生を得てドミニコ修道会に入会するまで、カナダでの神秘的な出会いや経験、高森草庵における生活をたどる。日本的靈性に根ざす歩み、まことを求めてゆく足取りが語られる。

◆A5判 上製・250頁・2,970円



全3巻

お薦めします



山折哲雄 (宗教学者、評論家)
「キリストに出会った
仏教徒」と称した粋な人



細川俊夫 (現代作曲家)
音楽人生を貫く根源語
となった押田神父の言葉

シリーズ続刊予定

- ② 世界の神秘伝承との交わり
—九月会議 2020年5月下旬刊行予定
- ③ いのちの流れのひびきあい
—地下流の靈性 2020年9月下旬刊行予定

大きな反響を呼んだ
『信徒の友』2017-18年度連載を単行本化

精神障害とキリスト者 そこに働く神の愛 石丸昌彦 監修

精神障害の当事者が抱える課題を、教会はどのように共に担ってきたか。教会につながっている当事者や支援者による証しと、クリスチャン精神科医の応答を通じて、傷ついた人と共に歩む道筋が見えてくる。

◆四六判 並製・216頁・2,420円

2020年1月24日刊行予定



発行所 〒163-0814 東京都新宿区新小川町九-1 一般財団法人キリスト教文書センター
電話03-3361-6520 振替001-70-511677
発行人 本村利春 編集人 土肥研一 印刷所 佃平河工業社
電話03-3361-5677
発売所 日本キリスト教書販株式会社

定価七八円(税抜七一円) (¥63円)
一年分一三〇〇円(送料共)